

愛知県議会議員

— 自民党 2 期 —

神谷 和利



国は、燃料電池商用車（FCTラック・バス）の導入に向けて意欲的な活動があり、燃料となる水素の需要が大きい自治体を選定し、集中的に支援するとして「重点地域」を公募。愛知県は2030

年度までにFCT商用車7千台導入を目標とする計画申請書を提出し、5月に重点地域に選定されました。

愛知県はCO2排出量が全国3位で、運輸分野の排出削減が急務ですが、小型FCT

ラックのリース代は通常の8倍、水素の販売価格は軽油の2倍超。水素社会実現へ今後5年が正念場

で、高額な導入・維持コストが普及の壁になっています。

と軽油価格の差額を国と県で支援します。また水素ステーション整備費、運営費についても補助率を上乗せ、商用車に対応した水素ステーションの大規模化や24時間営業に対する支援が強化されます。

2百台と試算していますが、現在FCT商用車の導入は進んでおらず、大型FCTラックは全国でわずか4台と聞いています。

愛知県は、国の試算を前提に全国目標の1/4相当を目標設定。必要な補助制度を創設・拡充することで国内のFCT商用車導入を牽引していきます。FCT商用車が普及すれば、全国に水素ステーションが充実、車両価格も水素販売価格も下がり、さらなるFCT乗用車の普及に繋がります。水素社会実現に向け、今後5年間が正念場です。

燃料電池商用車の導入加速へ

重点地域になると、

FCTラック導入費と通常車両との差額分が国と県から補助され、事業者の負担は1/12に削減されます。さらに県内に本拠地を置くFCTラック使用者に

国は、2030年における水素の年間導入目標は、乗用車換算で80万台分。これに対応するFCT商用車の車両供給の見通しは、小型トラックで累計2万台、大型トラックで累計5万台、バスで年間

対して、水素購入価格

昭和36年1月2日生まれ。豊田市柿本町3-34。愛知県議会経済労働委員会委員。名古屋港管理組合議会企画総務委員会副委員長。自民党愛知県第11選挙区支部長代理。元豊田市議会議長。愛知県森林協会副会長。豊田市少林寺拳法協会会長。ボイスカウト豊田地区副協議会長。